

【日本の食生活と肥満研究部会】

1, 2 月	1 月 17 日に全体会を開催。各分科会からの活動状況を紹介。本部会のまとめとして、2008 年 12 月 10 日（水）にシンポジウムを開催することとした。その準備委員会を設定、そのメンバーを確定した。次回の会合までに、開催案を作成することとした。
3, 4 月	本部会の研究発表会開催のための第一回組織委員会を開催し、発表会の開催素案を作成。4 月 17 日の全体会で、共有化した。開催日は、ILSI Japan の年次総会の日を第一候補（2009 年 2 月中旬予定）。発表イメージは、関連の先生（40 分）、分科会代表（25 分）で構成。開会の辞と総括を小林先生、閉会の辞を木村先生にお願いする方向で調整。
5, 6 月	本部会の研究発表会開催のための第一回組織委員会を開催し、発表会の開催素案を作成。開催日は ILSI Japan の年次総会の日を第一候補（2009 年 2 月中旬予定）。開会の辞と総括を小林先生、閉会の辞を木村先生にお願いする方向で調整。
7, 8 月	7 月 10 日に第 11 回研究部会（全体会）を開催。 来年 2 月に開催予定の発表会について、各分科会の進捗状況報告、 次回研究部会開催日程、 について討議。
9, 10 月	9 月 25 日（木）に第 12 回研究部会を開催。発表研究会についての進捗状況と今後の活動について確認を行った。研究発表会は第 4 回ライフサイエンスシンポジウムとして、2008 年 2 月 17 日に昭和女子大学にて開催する予定。メンバーに対して、大会費の請求を実施する。
11, 12 月	11 月 27 日に全体会を開催。来年 2 月 17 日のライフサイエンスシンポジウムでの発表内容の現状を確認。先生方も含め講演タイトルを 12 月 15 日、講演要旨を 12 月 31 日までに送付することとした。

* 発酵製品の多様性分科会

1, 2 月	関連報文の内容検討を継続。発酵食品と肥満の相関に関する直接的な科学論文は少ないため、食文化論の報文も検討する事とした。
3, 4 月	食品の量分科会と統合して活動継続。食事の水分に焦点を当てた展開を検討。
5, 6 月	食事の水分およびだしの効果について、引き続き調査を継続中。
7, 8 月	食事の量分科会と統合して活動を継続している。 7 月 7 日に、だしの効果として、ラットでの低、高、超高脂肪含有食におけるグルタミン酸ナトリウム溶液の自由飲水投与の影響についての話を聞いた。エネルギー摂取や食事量の差はないものの、飲水量、グルタミン酸摂取量が上昇した群では優位に中性脂肪量が低下している。動物のデータをヒトと比較できることが望まれる。
9, 10 月	発酵乳酸菌について情報収集。発酵乳酸菌のなかでも、発酵基質が動物性と植物性のものが存在する。日本の乳酸菌は、植物性のものが多いという識者のコメントもあったが肥満との関連についての科学的根拠は見つかっていない。 10 月 23 日に昭和女子大学飯野先生を訪問し、我々のこれまでの調査に対するコメントを頂いた。この内容を反映させ、分科会としてのまとめを行っていく予定。
11, 12 月	シンポジウムにおける要旨を作成した。今後、発表資料作成に着手する予定。また、

	ご講演いただく先生を東京農大岡田早苗先生に変更。
--	--------------------------

* 脂質の種類分科会

1, 2 月	調査を継続。
3, 4 月	調査を継続。
5, 6 月	報告会に向けて調査項目を再確認し、調査を継続中。10 月末を目途に調査およびその評価、まとめを行う予定。
7, 8 月	調査をメンバーで割り振りして担当する。10 月中に調査を終了する予定。
9, 10 月	3 テーマ（ 油脂と肥満の関連、 油脂が肥満に寄与しているイメージの形成、 油脂の良い摂取の仕方）について活動を行っている。 、 で情報を収集し、 の提言につなげていく方向で調査中。
11, 12 月	動物性脂質、水産物の脂肪酸、植物油脂についての調査報告のまとめ資料を基にシンポジウムで発表する内容を作成する予定。シンポジウムで報告をお願いする先生は、桜美林大学の柴田博先生に決定。

* 食事の量分科会

1, 2 月	前回の報告に引き続き FAO および WHO のデータから得られた炭酸飲料、肉の摂取量と BMI の相関に関して、論文調査を行った。論文の質をランク付けして、メタ解析を行うとより興味深いとの示唆を小林先生から頂き、今後、先生のラボでの解析なども検討いただくことになった。インターマップスタディー解析については、摂食のタイミングと BMI の相関を解析する方針でデータセット作成に着手。
3, 4 月	甘い飲料を中心としたソフトドリンクの摂取量と肥満に相関が見られる報告が散見。同時に、日本で炭酸飲料が普及しない理由を食文化に求められないか検討。インターマップスタディーについては、マクロ栄養素やエネルギーの時間別摂取を解析中。
5, 6 月	インターマップスタディーの解析を継続。一日の摂取エネルギー・マクロ栄養素摂取量を比較した結果、男性において BMI の高いグループは、低いグループに比べて一日の摂取エネルギー量は 130kcal 多く、夕食に脂質と動物性タンパク質の摂取が多い傾向。女性では、関連性が見られなかった（論文投稿予定）。
7, 8 月	インターマップスタディーのマクロ栄養素やエネルギーの時間別の摂取を解析した結果、夕食（17 時～0 時）にたくさん食べている人が太っているとの結果が得られた。女性ではエネルギー摂取と肥満に相関はなかったが、男性では、BMI が高い（25～33）年齢 40～50 代の群では BMI が低い群（17～22）に比べて摂取エネルギーが高い傾向があり、その時間的内訳は、朝 60kcal、夜 70kcal、おやつ若干量であった。また、両群間では動物性タンパク質および脂肪摂取量にも差がみられた。本内容は、疫学会誌に投稿し、1 月に学会発表の予定。
9, 10 月	食材やソフトドリンクの摂取量と肥満の相関について、2002 年のデータを用いて再計算し、炭酸飲料摂取量と肥満の相関が高いことを再確認した。インターマップスタディーの解析結果については、1 月 23 日に第 19 回日本疫学会にて発表の予定。研究発表会で岡山先生に講演いただくため、11 月 18 日に訪問することとした。
11, 12 月	2 月 17 日のプレゼン内容を共有化した。シンポジウムで報告をお願いする先生は、結

	核予防会の岡山明先生に決定。同時にインターマップデータの報告について、先生の了解を取得。また、ILSI 本部年会での報告内容についても相談。
--	--